

取締役会長メッセージ



持続的な成長と企業価値の向上へ、 ガバナンス改革を継続推進

取締役会長
取締役会議長
津賀 一宏

2021年6月、パナソニックの取締役会長に就任致しました。これまでの皆様からの多大なるご支援に感謝申し上げますとともに、これからは、社会と企業の接点に自らの立ち位置を移して、当社の継続的な発展のために力を尽くしていきたいと考えております。また、取締役会議長として、当社のガバナンス改革を推進し、取締役会の実効性や経営の機動性、透明性、客観性の向上などを通じて、持続的な成長と企業価値の向上を目指してまいります。

自身の果たすべき役割においては、3つのテーマを重視していきたいと考えております。

1つ目は、「ガバナンス」です。会長および取締役会議長としての最大の役割はガバナンスであり、これをしっかりとやり遂げていくことが自らの大きな責任です。当社では、透明性・公正性の高い事業活動を継続するため、さまざまなガバナンス改革を進め、取締役会の実効性向上を図ってまいりました。取締役会では、多様なバックグラウンドを持つ6名の社外取締役も出席し、多角的な視点での意見、質疑などを通じて、活発な議論が進められています。また、任意の指名・報酬諮問委員会では、CEOの後継者候補や交代時期などについても審議を行い、取締役会に答申しています。その結果として、特に、持株会社制への移行による事業会社化(2022年4月予定)やCEOの交代、Blue Yonder社の完全子会社化といった大きな決断について、透明性・客観性を持って実行することができたと考えています。まさに、取締役会や指名・報酬諮問委員会など、ガバナンスの土台をしっかりと築き、その機能を十分に発揮したからこそであると思っています。その体制・機能を活かしつつ、さらなる実効性の向上に向け、ガバナンス改革を継続してまいります。

ガバナンスには、多様な人が自由闊達に意見を交わし個性を発揮できる、オープンで健全な風土を構築していくことがすべての基本となります。多様な視点・知見を持つ人材が入り交じり、相互の価値観を尊重しながら、強みを掛け合わせ補完し合うことで、一つの組織の力や価値観だけでは成し得ないような新しいチャレンジができるわけです。そのような組織風土の醸成に向けて、多様性にあふれた人材の登用や経営参画を通じて、貢献していきたいと考えています。

2つ目は、「環境」です。子どもたちや孫たち、そしてその先の代まで豊かな社会生活を持続させるためには、グローバルの社会課題である地球環境問題の解決は極めて重要であり、当社として最優先で取り組んでいます。2021年5月、

楠見CEOが、当社を「地球環境問題の解決をリードする会社」にしていくと表明しました。それは、当社のすべての事業において、工場やオフィスなどにおける自社活動はもちろん、商品やサービスを通じて環境負荷軽減を実現することや、リサイクル・リユースの促進など資源の有効活用の視点でも大きな貢献を果たし、本来のお役立ちと環境の両面でトップランナーを目指していくというものです。決して簡単なことではありませんが、それゆえ、当社として挑戦する意義があると考えています。環境問題解決の領域で圧倒的な存在感を誇る会社の実現に向けて、全力でサポートしていきたいと考えています。

そして3つ目は、本質的な「成長」です。多種多様な事業を展開する当社にとって、本質的な「成長」とは何なのかと自問したとき、それは発展する社会とどれだけ歩みをとみにして価値を生み出せるか、ということに尽きるのではないかと考えています。それは非常に大きな課題であり、これまで当社が実行できていたかという点、必ずしも十分ではなかったと感じています。創業者 松下幸之助が自然の摂理として「生成発展」と唱えたように、企業も同じように変化に応じて有機的に姿や形を変えながら発展し、世のため人のために貢献し続けることができると考えれば、当社の存在意義・役割を改めて原点に立ち返って見つめ直す必要があると思います。そこを正しく理解し活動していけば、本質的で持続的な成長を実現することができると考えています。自らの責務として社内外、グローバル、ESGなどのさまざまな観点から当社の存在意義・役割を素直な心で見つめ直し、当社らしい「道」を追求していくとともに、当社の成長に向けたチャレンジをサポートしてまいります。

当社の持続的な成長そして企業価値の向上に向けた取り組みや、従業員・組織・事業会社の果敢なチャレンジに対して、これまでの経験を活かしながら自らの役割において支援、貢献してまいります。